

## 第 10 回 LNG 産消会議

### TotalEnergies SE

#### 会長兼 CEO、Patrick Pouyanné (パトリック・プイヤネ) によるビデオメッセージ

皆様、昨年と同様に本日の機会を頂き、エネルギー・トランジションにおける天然ガスと LNG の重要な役割について、それからグローバルなマルチエネルギー企業としての当社の取り組みについて、お話しできることを光栄に思います。

まず初めに、世界で最も評判の高い LNG 会議の一つであるこの「LNG 産消会議」が 10 周年を迎えられたことについて、日本政府にお祝いを申し上げます。この会議は、社会の利益に資する業界の健全な成長の持続を目指して、政府、生産者、消費者を含む全ての関係者が、建設的に先を見据え、共に協力して業界の課題に取り組むことを促すという、他に類を見ないハイレベルな会議です。

この間、私たちの業界は浮き沈みの波を経験してきましたが、毎年この会議では時宜にかなったテーマが経済産業省によって取り上げられてきました。今回のエネルギー・トランジションにおけるクリーン・エネルギーとしての天然ガス・LNG の役割というテーマは、気候変動への世界的な懸念が益々高まっている中、正に本年に議論すべき、とてもタイムリーなものです。

昨年 10 月、日本政府は 2050 年までにカーボンニュートラルの達成を目指すと宣言し、他の多くの国々もパリ協定で設定された目標を尊重するために同じ方向に向けて進み始めました。また、今年になって、日本政府は 2030 年までに GHG 排出量を 2013 年レベルから 46%削減するという意欲的な中間目標を設定しました。

社会に対して安定した経済的なエネルギーの供給を確保しつつカーボンニュートラルを達成することは、難しくとも必ず成し遂げなければならない目標であり、エネルギー業界にいる私たち全員が、人々や社会と協力し、その実現へ向けて尽力していかなければなりません。

そのために当社も一歩前に踏み出しました。2021 年 5 月、株主の全面的な賛同を得て、社名を「トタル」から「トタルエナジーズ」に変更し、当社を幅広いエネルギーを取り扱う企業に変革するという戦略を当社の企業アイデンティティに定着させました。今、私たちは、伝統的な石油やガスの分野だけでなく、水素、バイオガス／バイオ燃料、風力、太陽光といった電力、再生可能エネルギー、新エネルギーの分野でも世界のリーディング・カンパニーになりたいと考えています。

日本が、2050 年に向けてのゼロエミッション燃料として、水素とアンモニアのためのイノベーションを促す構想を進め行動を起こす戦略をとっていることを認識し、評価しています。「ブルー」あるいは「グリーン」の水素やアンモニアのための経済性のあるサプライチェーンを構築するという日本の挑戦は TotalEnergies の目標と全く一致するものです。私たちは既に幾つかの国々でパートナーと共に様々な協議や検討を開始しています。LNG について長年にわたって

今日まで行ってきたように、私たちは日本企業と協力して「ブルー」や「グリーン」の水素やアンモニアを日本に輸出するプロジェクトを開発できると確信しています。

幅広いエネルギーを取り扱う企業として、私たちは日本において既に 100 MW 以上の発電能力を有する主要な太陽光発電事業者であることを誇りに思っています。現在も日本での更なる太陽光発電能力の開発を進めており、また日本における洋上風力発電の事業機会も模索しています。私たちは、陸上・洋上風力や太陽光に関する日本の政策と意欲を注視しており、再生可能エネルギー、および電力セクターにおける日本企業との更なる協業に期待しています。

とは言うものの、天然ガスは、経済的で安定的で価値の高いエネルギーであり、石炭をよりクリーンに代替するものであり、再生可能エネルギーによる発電の間欠性を完全に相補するものであることを考えると、天然ガスの開発はエネルギー・トランジションの中において引き続き重要な鍵であり続けると当社は強く信じています。

世界の天然ガス需要は 2030 年まで毎年 1%増加し続け、その中でも LNG は益々大きな役割を果たしていくと予測しています。世界の LNG 需要は 2015 年から 2020 年の間に年率 10%で成長してきましたが、今後の 10 年間も少なくとも年率 5%の成長ペースを維持すると予測しています。

TotalEnergies は、持続可能なエネルギーの会社であるという目標に従い、天然ガス、とりわけ LNG を戦略の中心に置いています。私たちは、この低炭素エネルギーを生産し商業化できる世界の LNG プレーヤーのトップ 3 であり続けるという強い意欲を持っています。それは、2020 年の 4000 万トンという実績から 2025 年には 5000 万トンに、それ以降も更に当社のポートフォリオを拡大し続けることを意味します。

私たちはこの成長を実現するために、当社の強みを発揮していきます。

- 生産については、地理的な強い優位性を生かします。
- 上流部門ではテクニカル・スキルを活用し、既に投資決定されたプロジェクトや今後数年の内に投資決定されるプロジェクトによって、持続可能で収益性の高い成長がもたらされるでしょう。
- 下流部門ではコマーシャル・スキルも活用し、マーケティングやトレーディングの枠を超えて、幅広いエネルギーを取り扱う企業を目指すという目標に沿って、LNG だけではなく他のエネルギーについても、主要な国々の主要なパートナーと協業していきます。また、海運業界でのバンカリング用 LNG など、LNG の新たな利用方法を開発・促進していきます。そして、私たちの完全統合型のビジネスモデルを活用していきたいと考えています。

この点に関連して、当社と日本の主要なプレーヤーの皆様との強固な関係を強調し、感謝したいと思います。これまで日本は、長期的な購入コミットメントとファイナンスによって数多くの LNG プロジェクトを支援してきました。当社は日本のパートナーの皆様と協力して、アジア・太平洋、中東、ロシア、アフリカ、北米で幾つもの LNG プロジェクトに参画しており、も

もちろんそれらには INPEX との Ichthys LNG、三井物産・三菱商事との Cameron LNG、三井物産とのモザンビーク LNG や Arctic LNG-2 などが含まれます。

私たちは、マーケティングおよびトレーディングの活動によって、当社が日本に対する主要な LNG 供給者の一社となっていることを誇りに思っています。2020 年には、INPEX、中国電力、東北電力、関西電力、丸紅などの長期契約のお客様とスポット取引のおかげで、日本向けに 350 万トンを提供しました。これは、日本市場の 5% 近く、当社の全世界での LNG 取扱量の 10% 近くに相当します。

海運業界では、日本郵船と定期用船契約を締結しており、2021 年に 4 隻の新しい LNG 船が当社の船団に加わることであります。

TotalEnergies は、低炭素エネルギーを将来にわたって生産し販売する企業の模範になることを目指しています。

その観点から、メタン排出について懸命に取り組んでいくことは私たちの最重要課題です。何故ならば、メタンは二酸化炭素よりも大きな地球温暖化の影響を及ぼし、現在の地球温暖化のほぼ 4 分の 1 の原因であると推定されているためです。TotalEnergies は、自らが操業しているガス施設からのメタン排出量を 0.1% 未満にすることを公約しています。TotalEnergies は、OGMP 2.0 などのメタン排出量を削減していくための幾つものイニシアチブに参加しています。私たちの目的は、既に業界で最小レベルにある自社のメタン排出量を更に削減していくだけでなく、この実践成果を業界全体に広めていくことです。

LNG の炭素強度を下げるためにも、LNG バリューチェーンの各段階で幾つもの取り組みを始められています。上流の生産・液化段階では、例えば太陽光発電で駆動するコンプレッサーの採用や CCS の開発など、LNG プラントの設計・工程・運用の改良に取り組んでいます。

また、海運会社や造船会社と緊密に連携し、LNG 船の設計や運航を改善し、お客様に LNG を輸送する際の効率を高め、炭素強度を低減しています。

更には、炭素強度の「測定、報告、検証」に関して、公正で、合理的で、透明性の高い業界の国際標準を確立するための幾つものイニシアチブ、パートナーシップ、タスクフォースに積極的に参加し、議論をリードしています。

まとめとして、競争力のある低炭素な LNG をお客様に供給することが TotalEnergies の目標であることを改めて強調したいと思います。LNG の開発は、経済的で信頼性が高く、クリーンなエネルギーを提供するマルチエネルギー企業としての当社の世界的な取り組みの一環です。

TotalEnergies を幅広いエネルギーを取り扱う企業に変革するという私たちの意欲によって、カーボンニュートラルに取り組みながら、増大するエネルギー需要の課題に対処することが可能になります。私たちは、社会と共に、そしてパートナーやお客様と共に、これを実現します。

この挑戦に満ちた道程の中で、当社の長年にわたる日本のパートナーの皆様を頼りにさせて頂けることを私は深く確信しています。TotalEnergies にとって日本は、これまでも、そしてこれからも長きにわたって重要なパートナーであることを改めて申し上げたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。